

会報

第 63 号 (2022/10/27)

〒720-0082
広島県福山市木之庄町 4-3-14
Tel&Fax 084-917-5937
Mail
h5s21bm6@ene.megaegg.ne.jp



Community Renaissance
Research Center

今後の予定

油断しないで！
災害にどう備えるか

12月3日(土) 9時50分〜12時

講師：澤田結基さん（福山市立大学教授）

平坦に思える福山市中心部にも多くのここが
があり、地球と人間の歴史が刻まれています。
この企画では「プラタモリ」のタモリさんのつもり
で町を歩き、数千万年前の河の跡や近代の干拓
名残など、歴史を物語る地形を訪ねます。
昨年、講師の都合で実施できなかったものを
再度企画しました。



- ・ 現地視察（同封のチラシ参照）
- ・ 集合場所：福山みなと公園
南側駐車場（トイレ横）
- ・ 参加費：500円

・ 申込締切：11月28日（月）

連続講座オカリナが吹けるよ！

11月8日(火) 13時〜14時半

講師：村山ひろみさん

（福山市立大学名誉教授）

場所：ルネッサンス研究所 集会室

これまでは主旋律だけを吹いていました
が最近では、二つのパートに分かれて二
重奏を楽しんでいます。



シエロントロジー研究会

11月24日(木) 14時〜

場所：ルネッサンス研究所

参加費：300円

内容：『柏プロジェクトからみる地域包
括ケアシステム』132ページから。

参加者は少ないのですが、毎回各々が
現在直面している高齢問題をどう考
えるか、の話で盛り上がっています。

問い合わせ・申込先

NPO法人コミュニティルネッサンス研究所
電話・FAX：084-917-5937
メール：h5s21bm6@ene.megaegg.ne.jp

「ケアの社会学」を読む会

10月27日(木) 16時半〜

場所：ルネッサンス研究所

参加費：300円

読む本：上野千鶴子著『ケアの社会学』

内容：「第8章：よいケアとは何か」
(P. 108 から)



今号の内容

- ・ 今後の予定
- ・ 活動報告
- ・ 風よあらしよ
- ・ さかいの家」を訪問して
- ・ 編集後記

※内容は以下に記載

活動報告

シロントロジー研究会

9月例会は22日に予定していましたが、体調が悪かったり仕事が入ったりした方が多く、結局2名でした。テキストを約2ページ読んだ後、6月の例会で見た「人生会議」の動画と関連しながら「人生最後をどのように過ごすのがよいか」という話で盛り上がりました。自宅で最後を迎えられた知人例を出しながら、自宅で最後を迎える方が病人も家族もゆったり出来ているような話になりました。病気や家族の状況にもよると思いますが、なによりも往診や訪問看護、訪問介護の援助があつたこと、という話になりました。

「ケアの社会学」を読む会

9月例会では、8章よいケアとは何かで、「集団ケアから個別ケアへ」というサブタイトルがついています。この章を読んでみると、日本でもケアの場、個人の部屋を設けられるようになったのは、北欧のユニットケアを参考にした建築家の影響があったことがわかりました。ユニットケアはポジティブな効果もあったが、一方で、ケアの困難さもあつたことも。なんとなくケア施設を眺めていましたが、建物とケアは深く関わり、良いケアを模索しながら考えられたものだということに気づきました。

風よあらしよ

〜伊藤野枝の生涯〜

牧田幸文(会員)

大正時代に生きた女性解放運動家の伊藤野枝を主人公にしたドラマ、『風よあらしよ』が9月にNHKで放送された。伊藤野枝は、関東大震災直後の1923年9月16日戒厳令時に、大杉栄、甥っ子の宗一と共に甘粕大尉らによって連行され、虐殺されました。私は、「あの伊藤野枝がドラマの主人公になる」と、予告を見て驚き、ワクワクしながら3回のドラマを鑑賞しました。彼女は確かに風に向かって、嵐のように28歳の一生を遂げた人でした。

「あの、伊藤野枝」と書くとき、大袈裟なのかもしれないが、彼女は無政府主義者・大杉栄と不倫をやらかし、世間を騒がせ、公序良俗に反すると当時大バッシングを受けた女性です。また、大杉との恋愛の前に、彼女は出身地・九州福岡の親戚が決めた許嫁との結婚を破棄して、当時女学校の教員であつた辻潤と結婚してしまつた。この恋愛歴からすると、今でいうところの「魔性の女か?」と、思いがちですが、伊藤野枝はわりと浅黒く化粧つけない、なりふり構わないタイプの女性だったそうです。しかし、彼女は自由な恋愛を通して、自分の人生を自分で決める、という今から思えば当たり前のことを、

制限された生活を強いられていた大正時代の女性たちに見せつけた、当時では珍しい女性だったのです。

伊藤野枝は、辻から世間を賑わせていた平塚らいてつ『青鞥』を教えられ、17歳で青鞥社に入りました。経済的な理由で結婚を強いられた自身の経験を得て、彼女は女性が経済的に自立することを念頭に執筆活動をします。当時の青鞥社は、お嬢さんたちの集まりで、当事者として女性の困窮とその根源的な問題を問う伊藤は異色であつたそうです。彼女は結婚、女の役割、子育て等の自分の生活の中から出てくる苛立ちについても大胆に書き、時にはそれらを捨ててしまいたいという思いを率直に書いています。実際、子どもを置いて、大杉との生活に入ります。このように書くとき、なんという母親だ!と思うのですが。

大杉栄とのスキャンダラスな恋愛は、そもそも「他者に対してどう思うのか」という点から始まっています。伊藤は、足尾銅山の鉱毒が渡良瀬川に流れ込み、下流の谷中村が政府によって強制的立退きを迫られている実情を知り、村人の様子を思い、考え、苦しみ、なんとかできないかと当時の夫、辻に訴えます。辻は伊藤を自分のことや家庭のこともできないのに、他人に対してセンチメンタルになると批判し、彼女の他者への眼差しや感性を全面的に否定してしまします。家事も満足にできない自分をなじる夫を、彼女は「育児も手伝ってくれない夫」と批判的に見るようになります。次第に伊藤は、辻の究極的な個人主義に対して、

懐疑的になっていきます。一方で、辻が批判する「他者へのセンチメンタリズム」を大杉は大いに肯定し、彼は今こそセンチメンタリズムを持って、社会を改善する運動を主張するようになります。そんな大杉に、伊藤野枝はやられてしまうのです。大杉栄のちに「僕の一番好きなのは人間の盲目的行為だ。精神そのままの爆発だ。思想に自由あれ。しかしまた行為にも自由あれ。そしてさらにはまた動機にも自由あれ。」(1918年「僕は精神が好きだ」より)と書き、彼の思想の核となる大胆な行為論を主張します。当時のスキヤンダラスな恋愛事件によって、見えにくいのですが、伊藤のセンチメンタリズムと共感性は、二人の共通認識として育まれ、相乗効果を生み出した。彼らが発表する論文からはその熱いおもしろいひしと伝わり、読み手を魅了していきます。そんな彼らに惹きつけられた人たちは左翼だけでなく、右翼の大御所・頭山満や政治家・後藤新平らも含まれていました。しかし、時代は軍国主義に傾き、二人は国家権力を否定する危険人物として虐殺されてしまいます。ドラマ、「風よあらしよ」もこの虐殺され野ざらしにされた二人を映し出し、終わっていません。

伊藤野枝については、瀬戸内晴美(寂聴)の名著『美は乱調にあり』と『諧調は偽りなり』に詳しいが、最近、新進気鋭の政治学者・栗原康『村に火をつけ、白痴になれ』(2016年)、さらに作家・村山由佳の『風よあらしよ』(2020年)の出版があり、NHKドラマ化されている。こうした伊藤ブームは、伊藤たちの思想から私たちは学ぶ点がいまだ多いことを示していると思われれます。

参考文献

- ・ 伊藤野枝：『伊藤野枝 全集(上・下)』学藝書林、1981年
- ・ 多田道太郎編著：『日本の名著・大杉栄』中興論社、1969年
- ・ 村山由佳：『風よあらしよ』集英社、2020年

でいほーむ 『さかいの家』訪問



1. はじめに「いきさつ」

私はかねてより、高齢者のケアの場で農業を活かせないだろうか、と思ってきました。

ところが最近、その思いを後押しするようなことが続きました。

一つは、私自身の、農業塾での経験から得たことです。農作業を行っているうちに、和式トイレが使いやすくなり、思い出せない言葉をこれまでよりも短い時間で口に出ることが出来るようになってきました。すなわち、「野菜を育てる」ということを目標にして体を動かし、結果的に筋肉が鍛えられる、というところが良いな、と思えました。

いま一つは、本NPO法人安川代表の『高齢者神話』(2002年出版)の続編とも言える『エイジング研究の新天地〜高齢者像の反転〜』¹⁾という論文を掲載した本が出版されたことです。この本はアメリカのポストン・カレッジの『人はみな「社会」と関わり、働いて生き」しかも「楽しく意味のある仕事である』事が大切である』ということが、ヴァイタニードルと言う工場での高齢者の働き方を引きながら述べられています。

2. 「さかいの家」ってどんな施設？

連れていってもらったのは郷分町にある、(地域密着型通所介護事業所)『でいほーむさかいの家』でした。短時間ではありましたがお話を聞かせてもらいました。

頂いた施設のチラシには施設名の上に「社会参加型デイ」と書かれ、この施設のめざしていることを「役割は人を元気にする」と書かれています。

この施設の特徴として、次の5点が挙げられていました。①様々な専門職が在籍、②一人ひとりでできることを活かす「お仕事プログラム」、③家庭的な雰囲気なかでゆったりとしたリハビリ、④在宅での関わり方、環境づくりのご提案、⑤手作り野菜を使った美味しい「ご飯」!

この施設の特徴は「お仕事プログラム」ではないかと思えました。畑作り、料理作り、洗車など11のお仕事が列挙されていました。

このプログラムでは、『利用者の皆さんが社会や地域のなかで役割を担うこと大切になっている。

必要とされることで、やりがい、達成感を感じる
ことができ、その人らしくイキイキとした暮らし
を継続できる』と考えて取り組まれています。

私が見せてもらったのは、作業前の高校
野球部の泥だらけのボールでした。部員たちはき
れいにする暇がないと、この施設に依頼してこれ
を利用者がきれいにされるのだそうです。料
理作りは女性に人気があり、洗車は男性に人気の
プログラムだとか。

利用者さんの声として、役に立っているのがう
れしい、次は何を手伝うのか楽しみにしている、
お手伝いに行っている感じで楽しい、何か出来る
ことがあれば毎日でも行きたい、等などの声があ
がっていました。

3. 高齢者の働き方

高齢者が働くことは、すなわち今盛んに言われ
ているフレイル予防にもつながる事ではないの
か？地域や社会のなかで役割を担って体を動かす
ことがフレイル予防、健康寿命を延ばすことにも
つながる事だと思いました。

以前従姉妹の入所していた施設で、高齢者用の
押し車をおして、ひたすら施設内を歩いている方
を見かけました。きつと足が弱らないように、と
考えてされていることだと思いましたが、それを
見て私はなんとなく哀れさを感じました。たぶん
畑であったり花壇であったり、その他何か仕事を
しながら体を動かされている姿であれば、私自身
も元気をもらったような気がします。

檜山²⁾は、シニアが「元気で社会とポジティブ
につながるシステム」として高齢者の専門性を活
かす仕事を考えています。このように専門を活
かした仕事も大事でしょうか、高齢者誰でもが
何かの仕事に参加出来ることも大切ではないで
しょうか。
(文責 加納)

注

- 1) 編集塩見治人、安川悦子他編：ポジティブエイ
ジングへの展望、21世紀シニア社会をデザイ
ンする、風媒社 2022
- 2) 檜山敦：超高齢社会 2.0 クラウド時代働き方
改革、平凡社新書 2017



編集後記



先日、以前NPOで行った「上手な転び方講座」を受講
された方が「転んだ時にけがをしなくて良かった」と言
われていたよ、とお聞きしました。予防だけでなく転
び方を知っておくというのは大事かもしれません。

秋風が気持ちのよい季節になりました。先日、我が
家では子どもと栗拾いをしました。屋外での作業は、
心と身体を使って心地が良いものです。あとで、栗ご飯
にして美味しく頂きました。今回、ケアの中に「仕事」
をとり入れている話がありました。どのような年齢で
あっても、人の役に立っていると嬉しいと思い、人に認めら
れるとハッピーな気持ちになります。わが家でもちよっ
としたお仕事を子どもにもしてもらおうことがあります。
「ありがと」と言うこと一人前として認められていると
感じるのは嬉しそうです。きつと、大人も子どももあ
りがとう、助かります」と言われる一言が心にも身体
にもよいことなのだろうと思いました。

この度、NPOでは「福山のごぼろを歩く」というタ
イトルでイベントを行います。プラタモリのように、地
形から福山の成り立ちや歴史を学ぶ楽しい企画です。
ぜひ、お誘いあわせてご参加お待ちしております。(澤)

NPOへのお便り募集!



「ミルネへのお便りを募集します。ご感想・ご
意見などをTEL・FAX又はメールアドレスに
お寄せ下さい。」